



高性能な金属加工機械と熟練の技の融合で、高精度な製品を作り出す

沢井工業株式会社 本社工場（茨城町）



代表取締役 沢井 勉氏

品川区で創業

沢井工業株式会社（以下、沢井工業）は、1948年（昭和23年）に、現代表取締役の祖父である沢井勇氏が、東京都品川区で創業した有限会社沢井製作所（以下、沢井製作所）を前身としており、発電所のプラント等で用いられる油圧防振装置等、各種機械部品の切削加工を行っておりました。

高度経済成長期に入り、沢井製作所の事業は順調に拡大していきましたが、品川にある工場付近は宅地開発が進行し、騒音問題等に注意を払う必要が出てきました。

そこで、1966年（昭和41年）、設備拡大により更なる生産体制の強化を図るべく、現在地の茨城県東茨城郡茨城町に工場を新設し、沢井製作所の関連会社として沢井工業株式会社を設立しました。1976年（昭和51年）には、経営合理化の一環として東京の沢井製作所と茨城の沢井工業を統合し、本社および生産機能を茨城町に集約しました。

統合後は、マシニング工場や旋盤工場の増設、事務所の建て替え等を行い、2016年（平成28年）にはガス軟窒化処理^(*)が可能な高萩工場を開設する等、生産規模を拡大し現在に至っています。

機械と職人技の融合により超高精度な金属加工を実現

現在の沢井工業は、主に印刷機械や油圧ダンパー、プラスチック成型機械、プラント等に使用される金属

部品の精密加工、ASSY^(*)を専門に事業を展開しています。

特に、マシニングセンターやNC旋盤、NCフライス盤等を用いた複雑な金属加工と従業員の熟練した“技”を融合し、機械加工だけでは実現できない超高精度の金属加工が沢井工業の強みとなっています。

中でも特徴的なのが、印刷機械に用いられる長物加工です。熟練従業員の手によって加工の際に生じる金属のソリを0.02ミリ以下に抑える等、製品の精度を極限までに高めており、沢井工業が作り出す部品は国立印刷局に納められる紙幣の印刷機械にも使用されています。

沢井工業の加工技術や生産体制は、創業時から現在に至る様々な困難を乗り越え、その時々を契機として構築されたものです。例えば、1974年（昭和49年）のオイルショックでは、受注の大半を一時的に失うといったことがありました。そこで、これまでの生産性や精度がさほど高くない手作業中心の加工から、旋盤やフライス加工ができるマシニングセンターを導入して機械化による加工を進めたことで、生産性の向上と



茨城町の本社工場

高精度生産技術を構築し、自社製品の高付加価値化に成功しました。またある時には、海外からの安価な製品が流れ込み、主力である印刷機械の部品加工を海外企業に奪われたこともありましたが、しかし、海外企業の製品は不良品率が5割もあり、顧客が要求する精度を満たすことができなかったため、安定して高水準の金属加工ができる沢井工業に時を経たずして受注が戻りました。



職人技による高精度の製品



製作作業の様子

これまで蓄積してきた加工技術や生産体制を維持していくため、沢井工業ではOJTだけでなく、定期的な勉強会の開催によって熟練従業員の“技”の継承や図面の読み方等の技術講習も行っています。さらに、作業現場で発生した不具合等の改善案を従業員が率先して提出する等、職場環境の維持・向上に対する意識の醸成が図られています。

更なる成長に向けて

少子高齢化の進行により、我が国の生産年齢人口は1995年（平成7年）をピークに減少に転じており、総人口も2008年（平成20年）をピークに減少に転じています。総務省「国勢調査」によると、2015年（平成27年）の総人口（年齢不詳人口を除く）は1億2,520万人、生産年齢人口（15歳～64歳）は7,592万人となっており、14歳以下の推計人口は1982年（昭和57年）から連続して減少が続き、少子化に歯止めがかからない実態が浮き彫りになっています。

また、中小企業庁「中小企業白書」によれば、中小企業の経営者年齢の分布は1995年（平成7年）の経営者年齢のピークが47歳であったのに対し、2015年（平成27年）の経営者年齢のピークは66歳となっており、経営者年齢の高齢化が進んでいるとあります。さらに、経営者の高齢化や後継者不在により、休廃業・

解散を選択する企業も増加しています。

そのような時勢でも、沢井工業では、1948年（昭和23年）に創業してから70年の節目を迎えた2018年（平成30年）、生産管理部長であった後継者が3代目社長に就任し事業を承継しました。

新たなステージに突入した沢井工業では、国内外のライバル企業との競合や、加工技術の革新、材料の価格変動等、目まぐるしく経営環境が変化する中、新社長のもと、ベトナム人留学生の受け入れを開始し、新たな人材の確保と育成に力を注いでいます。また、従業員間による加工技術力の継承と金属加工機等への設備投資に留まらず、生産管理システム等を導入し生産性の効率化を目指す沢井工業は、今後更なる飛躍を遂げられることが期待されます。

*1 ガス軟窒化処理…金属に窒素を浸透させ、窒化物を形成し表面を硬くする処理のこと。表面の硬さは高周波焼入や浸炭焼入を大きく上回り、摺動部の耐磨耗性が向上する。

*2 ASSY（アッシー）…パーツ単体ではなく複数が組み合わされた構成部品（ユニット）を指す言葉。「assembly（アッセンブリー）」の略語。

会社概要

所在地	(本社・工場) 茨城県東茨城郡茨城町若宮 264
業種	金属部品の製造・加工
従業員数	38名
代表取締役	沢井 勉
連絡先	(本社) 029-293-7017
URL	http://www.sawaikk.com/index.html